

## 2013年度受託研究概要報告

# 超小型モビリティのラッピングデザイン

## 研究メンバー

荒木優子	デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授
曾和具之	デザイン学部プロダクトデザイン学科准教授
見明 暢	デザイン学部プロダクトデザイン学科助教

## 委託者

六甲産業株式会社

## 研究概要

2013年3月に国土交通省から平成24年度超小型モビリティ導入促進事業者として認定を受けた六甲産業株式会社が、平成25年10月から六甲山上にて展開をするEV新車両ラッピングデザインを行う。

神戸市「六甲・摩耶活性化プロジェクト」指定事業でもある本事業は、観光活性を狙ってEVによる六甲周遊の新しい楽しみ方を提案するもので、本課題である車両のラッピングデザインは、事業の方向性・可能性を握る重要な位置づけである。

## 研究成果

平成25年7月末にオリエンテーションを受けた後、ビジュアルデザイン学科とプロダクトデザイン学科の選抜学生メンバーでデザイン作業を進めた。大学の夏期休業期間に重なり各学科ごとの作業となった。ビジュアルデザイン学科では、先行して導入されている香川県豊島に実車見学に行き、自然豊かな島内を軽快に走るEVから、六甲での展開についてイメージを膨らませた。

9月20日に両学科から集まった計18点のデザインの中から六甲産業と協議の結果4点を選び、その4点についてブラッシュアップを行い10月初旬に最終デザインを提出した。

選考の基準は、山深い六甲の環境の中で映える固有のデザインであるか否かがポイントとなった。選ばれた4点はそれぞれ、六甲の自然、環境、風景、生き物をテーマにデザインしたもので、ラッピングされた4台の車両はデザインにおける共通項は見出だしがたいが、バラエティに富み、その分顧客の好みで車を選ぶ楽しみが増すと考えられる。

今後、六甲山をEVの聖地として発展させる構想もあり、今回の事例をきっかけに引き続きデザイン面での協同を行っていきたいと考えている。

